

「相手(採点者)に伝わる答案」へ向けて気をつける観点

観点	判断
和訳問題で、意味がすんなり伝わる日本語の文を書けていること	NG
和訳で、英文の構造を理解していることが伝わるように訳せていること	OK
英作文の文章全体を通して、文と文のつながりや主語の一貫性、時制の配慮などができていること	OK
英作文でスペルミスや句読点、語句の抜け漏れがないこと	OK

あなたは京大英語・大問Ⅰ(4)、Ⅱ(1)ともに、どこからどこまでが関係詞節であるか、正しくとらえられているのに、すべてを先行詞の単語を修飾する形で長く書いているために、かえって意味が採点者に伝わりにくくなっています。

思いきって文を区切る、つなぎ言葉を補うなどして、日本語として読んだときに意味がスムーズに伝わる和訳にしましょう。下書き用紙に和訳を書き終えたらすぐに清書せずに、いったん下線部の前後の英文の和訳もざっと書き、そこに下線部の和訳を埋め込んでも前後がうまく続くか、という観点で見直してから、一気に清書するようにしましょう。

また、第Ⅲ問(英作文)は最後に取り組んだと思いますが、あわてたのかスペルミスが3箇所もあります。読解でわからない単語が出てきて考え込むと手間取る恐れがありますから、先に英作文を仕上げ、下書きを見直して清書してから残りの時間で読解にじっくり取り組む方がよいでしょう。その際も第Ⅰ問と第Ⅱ問の時間配分に気を配ってください。

センター試験も終わり、他教科の2次試験準備も忙しいと思いますが、英語については、英文を読むスピードを落とさないように、京大過去問レベルの英文を1日1題は読むようにしてください。また、単語集などは、移動中の細切れの時間などをうまく使って、広く浅く全体を総復習することを心がけてください。合格まで、ペースを崩さず突き進みましょう。